

# 令和7年度 自己評価および学校関係者評価書

令和8年2月27日  
函館市立高丘小学校

## 1 本年度の重点教育目標

○重点教育目標「気づき、考え、行動する子」の育成 ○キャッチフレーズ「学び、学び合う学校づくり」

## 2 本年度の取組の重点

①学んだことを社会に生かそうとする 学びに向かう力、人間性など ②実際の社会や生活で生きて働く 知識及び技能 ③未知の状況にも対応できる 思考力、判断力、表現力 ④チーム高丘で未来を拓く

## 3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
①学んだことを社会に生かそうとする 学びに向かう力、人間性など	○認め合い高め合える集団づくり ○個と集団のよさを実感できる活動 ○自己肯定感を高める活動	a	授業を核とした学級経営を充実させ、児童会活動やたてわり、異学年での交流及び共同学習の充実を図った。	A	A	学級経営の充実が土台となることは望ましい。
	○誰一人取り残さない学びの提供 ○いじめ、不登校等への組織的な対応 ○持続可能な教育環境の構築	b	ボランティア活動を充実させ、丘っ子5つの約束の徹底と教育相談の充実（いじめアンケート等の実施）を図った。	A	A	持続可能な教育相談の充実が望ましい。
②実際の社会や生活で生きて働く 知識及び技能	○授業改革の推進 ○学びの基盤づくり ○個別最適な学びの充実	a	日常の授業改革のために、一人一授業の公開を行い、問題解決的な学習における学習過程を徹底させ、授業のユニバーサルデザイン化と一人一台端末、ICT機器の有効活用に努めた。	A	A	授業改革推進のための学びの基盤づくりが大切である。
	○教科横断的な学習の実施（海洋STEAM教育） ○情報活用能力の育成 ○家庭学習の見直し	a	海洋STEAM教育の全校実施により、総合的な学習の時間の系統的な教育課程の改善を図った。さらに、体育の授業改善（食育の計画的取組等）に努めた、全国学力・学習状況調査の活用により課題を把握し、小中連携による家庭学習強調週間を実施し、家庭学習習慣の確実な定着を図った。	A	A	海洋STEAM教育の実施により、教科横断的な学習の充実が図られた。
③未知の状況にも対応できる 思考力、判断力、表現力	○支持的風土の醸成された学級づくり ○協働的な学びの充実 ○望ましい学校生活の確立	b	児童の心理的安全性の下に学びを充実させるために、学級経営の充実を図り、授業形態を工夫した学び合いを充実させた。さらに、家庭との連携により「早寝・早起き・朝ご飯」の徹底を呼びかけた。	A	A	家庭との密接な連携により、望ましい学校生活の確立が望まれる。
	○豊かな道徳性を養う指導 ○地域とのかかわりの充実 ○読書活動の充実	a	関係機関との連携による保健安全防災教室の実施、道徳科を中心に据えた道徳教育の充実を図った。そして、異校連携により、義務教育9年間を見通した子どもの育成を目指し、福祉施設、高等教育機関、幼稚園、保育園との連携を充実させ、図書に触れる機会の確保及び拡大に努めた。	A	A	豊かな情操を育む読書活動の充実が望まれる。
④チーム高丘で未	○地域学校協働活動の充実 ○幼保中高大との連携	a	中学校区による3校連携の学校運営協議会の取組を通	A	A	中学校区3校連携の学校運営協議会の取組を推進させ

来を拓く	○地域人材の活用		じて、家庭・地域と一体となった学校運営の推進に努めた。			る。
	○育成する子ども像の共有 ○ウェルビーイングの実現 ○見通しをもった働き方	a	学校便りをはじめとした各種通信、地域のイベントへの参加等を通して、家庭・地域・学校がめざす子ども像や教育目標、学校運営の基本方針の共有に努めた。校務DXの活用等により業務の効率化を図り、教職員の在校等時間の短縮に努めることができた。	A	A	教員の働き方改革の推進により子どもと向き合う時間の確保が望まれる。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた (8割以上)
b	概ね達成できた (6割以上)
c	十分ではない (4割以上)
d	達成できなかった (4割未満)

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。